



エコセンターあんじょう

非常事態！ごみが
増え続けています

平成17年度のごみ排出量を基準に、平成22年度末、目標のごみ減量20%を達成しました。
しかし現在、新たにごみ減量30%を目標に掲げましたが、ごみの量が増え続けています。
●**ごみ処理に約30億円も** ごみの処理にかかる費用は年間約30億円。これは小学校を1校新設するのと同額です。皆さんからの税金をもっと有効活用するため、ごみ減量にご協力ください

あと10%に
ご活用ください！

市ではごみ減量や分別に役立つ事業を展開しています。

●**リサイクルステーション・エコセンターあんじょう**
雑誌・雑がみ、ダンボールやペットボトルなど資源となるものを回収。さらに、携帯電話、デジタルカメラなど小型家電も回収しています。

●**ところ** リサイクルステーション↓安城北部(ピアゴ東栄店南/東栄町)、新安城(イトーヨーカドー安城店駐車場内/住吉町)、桜井(アピタ安城南店東/スポ安城店東/赤松町)、三河安城(ピアゴラフーズコア三河安城店駐車場内/三河安城南町)エコセンターあんじょう↓中心市街地交流広場内(御幸本町)

●**生ごみ処理機器購入補助**

生ごみを減らしたり、たい肥にできたりする処理機器の購入を補助しています。

●**補助率** 購入額の3分の2(上限あり)

●**その他** 乾燥式生ごみ処理機モニター(4週間無料貸し出し)制度もあります

特集1

実行！続行！
ごみ減量30%

あと10%のご協力をお願いします

目標のごみ減量30%まで、あと10%のごみ減量が必要です。
市民の皆さんのご協力をお願いいたします。

問▶ 清掃事業所(☎76)3053)

新キャッチフレーズを決定

本紙昨年12月15日号で、ごみ減量30%のキャッチフレーズを募集しました。応募の中から、



受賞者の皆さん

「実行！続行！ごみ減量30%」を特選に決定し、受賞者の皆さんを、3月23日の市産業フェスティバル内で表彰しました。受賞者と作品は次のとおりです。

《敬称略》

●**特選** 深谷義人(百石町)

●**入選** 河野文泉(和泉町/続けよう!!ごみ減量目指せ30%)、田島楓香(福金町/意識して今こそやろうごみ減量!)、里岡明子(里町/ごみ減量ひとりひとりが皆主役!)

●**深谷さんインタビュー**



◆家族で考えました
キャッチフレーズは、妻と二

ごみ30%減らし隊を結成



イベントなどでPRしていきます

ごみ減量と呼びかける市民団体「ごみ30%減らし隊」ができました。各地域の町内会長が中心となり、市主催や各地域の行事などでPRしていきます。皆さんも隊員となり、減量率30%を達成しましょう。

◆**隊員から**

◆**まずは紙から**
燃やせるごみとして捨てられる中

には、まだまだ資源となる紙類がたくさん入っています。まずは紙の分



ベストが目印

人で考えました。語呂が良く、覚えやすいと思うので、皆さんに浸透してくれたらうれしいですね。
◆**分別表が分かりやすい**
家庭でごみの分別に取り組んでいます。市外から結婚を機に安城へ引っ越してきましたが、市の配布しているごみ分別表が分かりやすいです。リサイクルステーションもよく利用しています。

本紙ごみ減量啓発マークをリニューアル

新キャッチフレーズ決定に伴い、本紙毎月1日号の表紙に掲載している啓発マークを、5月1日号からリニューアルします。表示する減量率を30%までの残りの数値で表します。あと10%程度です。皆さんで取り組みましょう。



◆**分別しやすい環境を**
家のあちこちに分別の袋を設置すると、分別の手間が減ります。

◆**子どもを分別リーダーに**
家族で分別リーダーを決めるという方法があります。特に、市内の小・中学校では、積極的にごみ分別を学習しています。子どもに分別リーダーを任せて、管理してもらおうというのも、良い案だと思います。

◆**生ごみにも注目**
生ごみを減らすことも、ごみ減量につながります。食品をたくさん買いすぎない、生ごみの水気を絞るなどにも取り組んでください。